

第105回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成27年1～3月期実績・平成27年4～6月期見通し)

1. 調査時点 平成27年3月2日～3月6日
2. 調査対象企業数 173社中回答 173社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以下	39	39	100.0
建設業	〃	42	42	100.0
卸売業	従業員 100人以下	7	7	100.0
小売業	従業員 50人以下	54	54	100.0
サービス業	〃	31	31	100.0
合計		173	173	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫 地域・中小企業研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課 (Tel. 0146-22-4100、内線 621)
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 173 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 概 況

今期 (平成 27 年 1~3 月期) の業況判断 D. I. は $\Delta 34.2$ と、前期 (平成 26 年 10~12 月期) 比 15.1 ポイント下降したものの、前年 ($\Delta 37.7$) 比では 3.5 ポイント改善。前期 (平成 26 年 10~12 月期) 調査時点での今期 (平成 27 年 1~3 月期) 見通し ($\Delta 48.0$) を 13.8 ポイント上回る水準となった。業種別には、製造 $\Delta 30.8$ (前期 5.1)、建設 $\Delta 11.9$ (同 4.8)、卸売 $\Delta 85.8$ (同 $\Delta 28.6$)、小売 $\Delta 38.9$ (同 $\Delta 37.0$)、サービス業 $\Delta 48.4$ (同 $\Delta 48.4$) となった。

売上額判断 D. I. $\Delta 45.7$ は、前期比 38.2 ポイント下降、収益判断 D. I. $\Delta 43.4$ は、同比 27.2 ポイント下降した。

来期 (平成 27 年 4~6 月期) の予想業況判断 D. I. は $\Delta 26.0$ と、今期実績比 8.2 ポイントの上昇見通しとなった。業種別にみると、製造 $\Delta 15.4$ 、建設 $\Delta 21.4$ 、卸売 $\Delta 57.1$ 、小売 $\Delta 37.1$ 、サービス $\Delta 19.4$ と来期を見通している。

【業種別天気図】

業種	時期	地 区 内				北 海 道	全 国
	26 年 7 月~9 月	26 年 10 月~12 月	27 年 1 月~3 月	27 年 4 月~6 月見通し	当 期	当 期	
総 合							
製 造 業							
建 設 業							
卸 売 業							
小 売 業							
サ ー ビ ス 業							

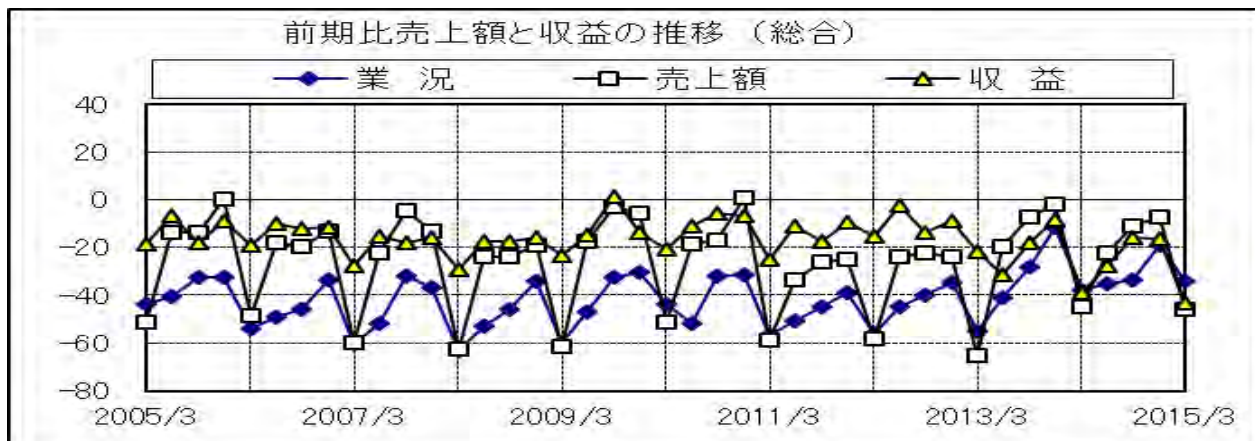
好調 ← → 低調

この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-33.5	-19.1	-34.2	-26.0
売上額	-10.9	-7.5	-45.7	-13.8
収 益	-15.6	-16.2	-43.4	-17.4

全業種総合の今期の業況判断 D. I. は $\Delta 34.2$ と、前期比 15.1 ポイント下降した。地区別の D. I. は、高い順に、広尾、静内、えりも、三石、様似、浦河となった。業況判断 D. I. は前年 ($\Delta 37.7$) 比では 3.5 ポイント改善した。売上額判断 D. I. $\Delta 45.7$ は前期比 38.2 ポイント下降、収益判断 D. I. $\Delta 43.4$ は同比 27.2 ポイント下降した。



□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	10.4	3.5	-7.5	7.0
仕入価格	37.6	34.8	21.4	27.2

販売価格判断 D. I. は $\Delta 7.5$ と、前期比 11.0 ポイント下降した。仕入価格判断 D. I. は 21.4 と、前期比 13.4 ポイント下降した。業種別にみると、販売価格は製造業・小売業・サービス業で下降、建設業は上昇した。一方、仕入価格は全業種で下降した。販売価格は前年 (0.5) 比で 8.0 ポイント、仕入価格は前年 (43.6) 比で 22.2 ポイントそれぞれ下降した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-6.4	-3.4	-13.8	-6.4
人手状況	-13.3	-19.1	-6.3	-11.0

残業時間判断 D. I. は $\Delta 13.8$ と、前期比 10.4 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。人手過不足判断 D. I. は $\Delta 6.3$ と、前期比 12.8 ポイント上昇し、人手不足感を弱めた。

□ 設備投資の動き

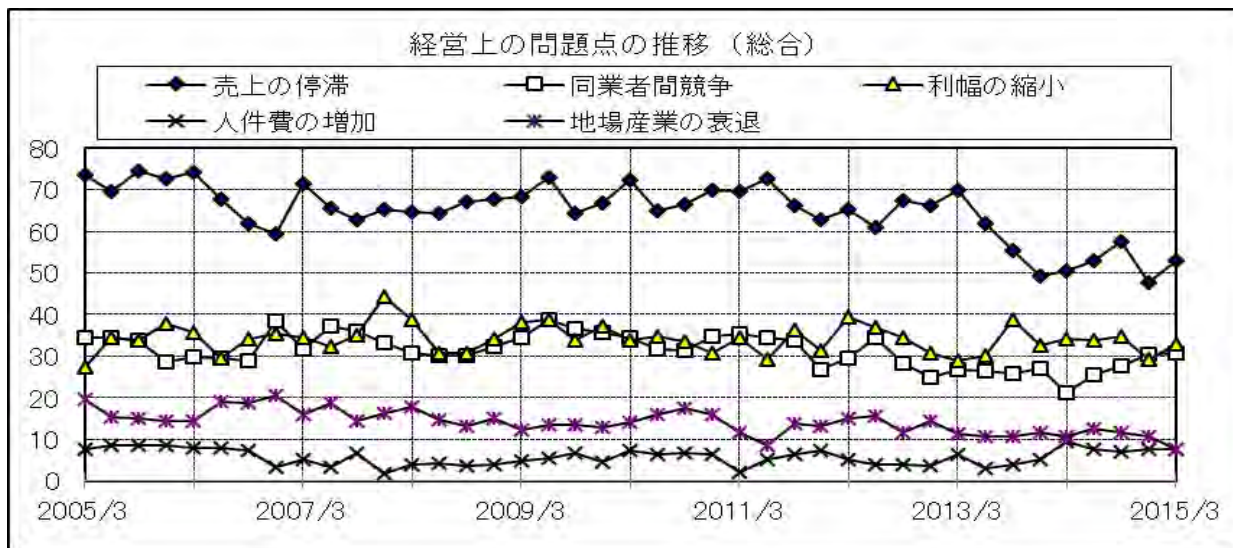
設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 8.0$ と、前期比1.8ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は17.9%と、前期比0.6ポイント下降、31社の実施となった。来期の設備投資は、15社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」が52.9%で最も多く、「利幅の縮小」32.9%、「同業者との競争」30.6%、「人手不足」12.4%、「諸経費の増加」10.6%と続いている。

重点経営施策では、「諸経費の節減」が79.6%で突出している。次に「人材の確保」16.7%、「教育訓練を強化」、「パート化を図る」が同値の4.9%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 26.0$ と、今期比8.2ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 13.8$ と、今期比31.9ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 17.4$ と、今期比26.0ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は7.0と、今期比14.5ポイントの上昇を見通している。

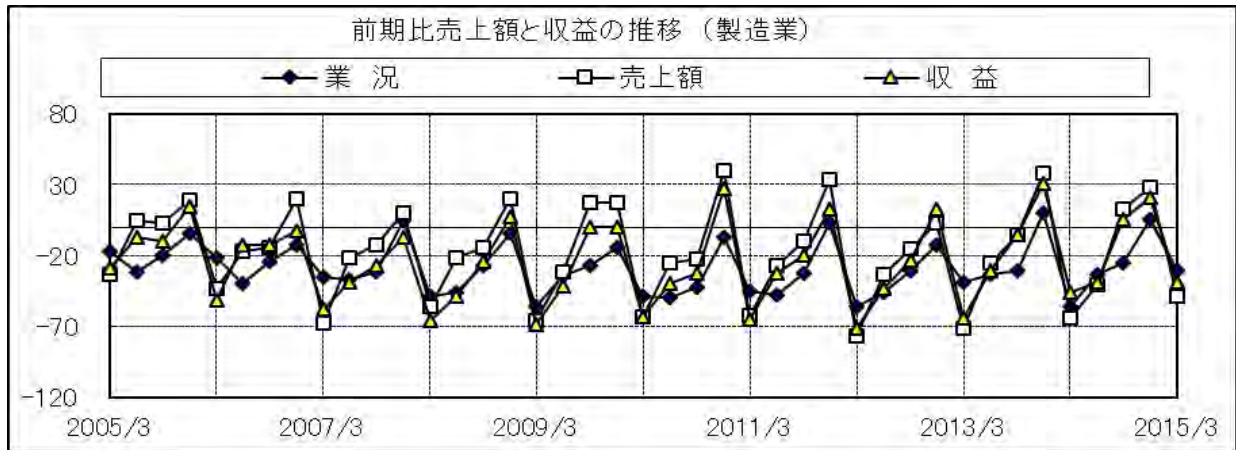
予想仕入価格判断D. I. は27.2と、今期比5.8ポイントの上昇を見通している。

製 造 業 39 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

□ 景 況

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
業 況	-25.6	5.1	-30.8	-15.4
売上額	12.8	28.2	-48.7	0.0
収 益	5.1	20.6	-38.5	-5.1

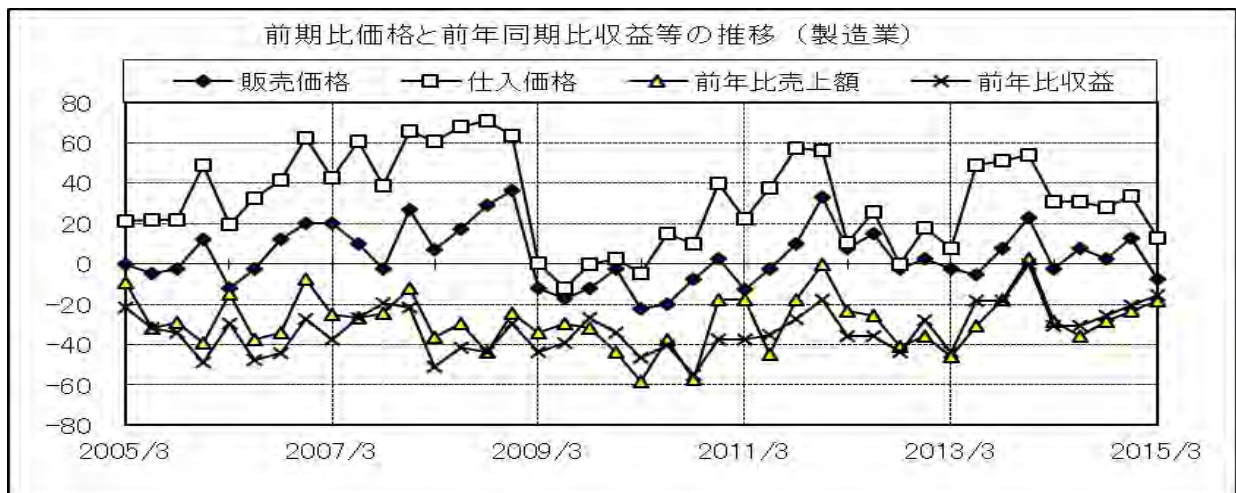
今期の業況判断D. I. は△30.8、前期比 35.9 ポイント下降した。地区別の D. I. は、高い順に、広尾、様似、浦河、えりも、静内、三石となった。前年(△56.4)比では 25.6 ポイント上昇した。売上額判断 D. I. は△48.7 で前期比 76.9 ポイント下降、収益判断 D. I. も△38.5 と同比 59.1 ポイント下降した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
販売価格	2.6	12.7	-7.7	-0.1
仕入価格	28.2	33.4	12.8	28.3

販売価格判断D. I. は△7.7 と、前期比 20.4 ポイント、前年(△2.5)比 5.2 ポイントの下降となった。仕入価格判断D. I. は 12.8 と、前期比 20.6 ポイント下降、前年(30.7)比でも 17.9 ポイント下降した。業種別に見ると、食品は販売価格・仕入価格ともに下降した。木材は販売価格が横ばいで仕入価格は上昇した。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7~9月 期実績	10~12月 期実績	1~3月 期実績	4~6月 期見通し
残業時間	-5.2	12.9	-20.6	-7.7
人手状況	-15.4	-20.5	5.1	-10.3

残業時間判断D. I. は△20.6 と、前期プラス値からマイナス値へと 33.5 ポイント下降し、残業時間が減少したとする企業割合が増加した。

人手過不足判断D. I. は 5.1 と、マイナスからプラス値となり前期比 25.6 ポイント上昇、人手過剰感となった。

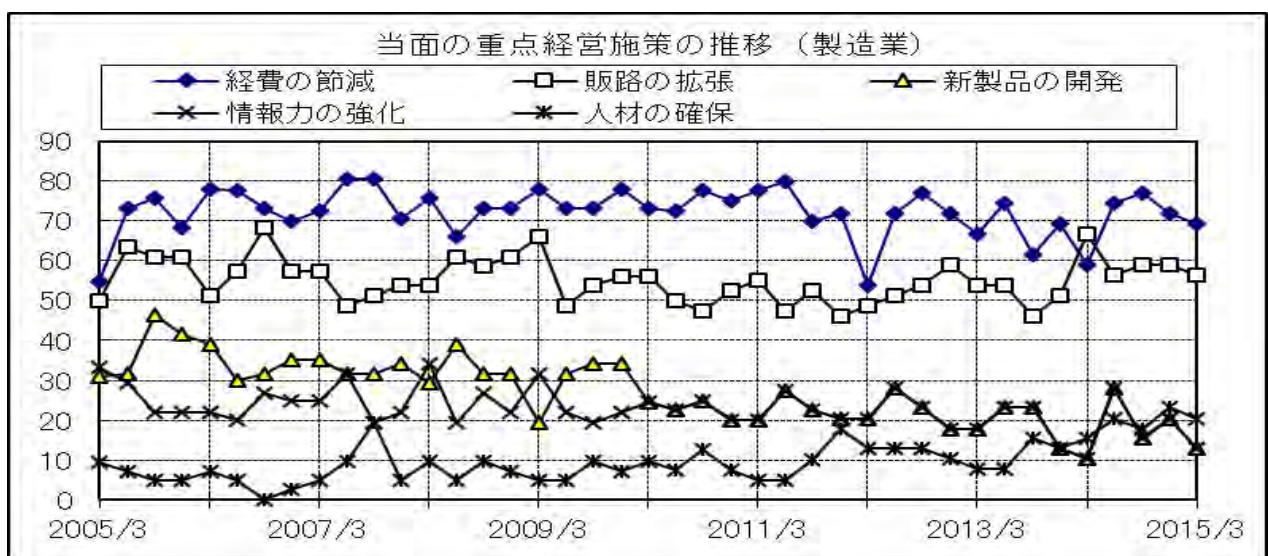
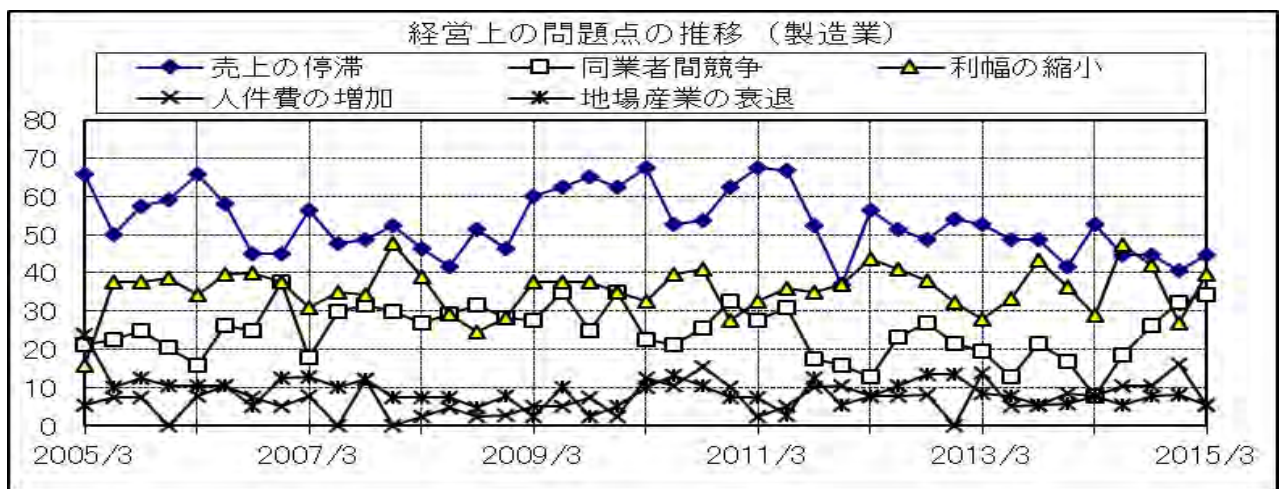
□ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 7.8$ と、前期比2.5ポイント上昇した。設備投資実施企業割合は28.2と、前期比7.7ポイント上昇。前期の8社に対し11社の実施となった。
来期の設備投資は、5社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」・「原材料高」をトップに挙げそれぞれ44.7%、「利幅の縮小」39.5%、「同業者との競争」34.2%と続いた。

重点経営施策では、「経費の節約」をトップに挙げ69.2%、次いで「販路を広げる」56.4%、「人材を確保する」が20.5%と続いている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 15.4$ と、今期比15.4ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. $\Delta 0.0$ は、今期比48.7ポイントの上昇を見通している。

予想収益D. I. は $\Delta 5.1$ は、今期比33.4ポイントの上昇を見通している。

予想販売価格判断D. I. は $\Delta 0.1$ は、今期比7.6ポイントの上昇を見通している。

予想仕入価格判断D. I. は28.3と、今期比15.5ポイントの上昇を見通している。